

令和5年度大谷場中学校だより



# おおやば

## 第5号

令和5年8月29日(火)発行

学校教育目標

「より高く、より広く、より深く、より強く」

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場2-13-54

TEL : 048-882-9962 FAX : 048-811-1336

WEB : <https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/>

MAIL : oyaba-j@saitama-city.ed.jp

学校WEBページ  
QRコード



## 「やればできる」

校長 八坂和典

今日から令和5年度、2学期がスタートします。夏休みはかつて経験したことがない災害級の猛暑が続き、「熱中症」が大変心配されました。しかし、本校では大きな事故もなく、過ごすことができました。また、夏休み中に多くの部活動で大会がありました。埼玉県学校総合体育大会に出場した男子ソフトテニス部（個人・団体）、陸上競技部（円盤投げ）、剣道部（個人）は、上位進出とはなりませんでしたが、それぞれが力を出し切り頑張ってくれました。水泳では2名の選手が関東大会に出場し、3年生の佐藤悠哉さんが200M平泳ぎで第1位、渡部一光さんが100M自由形で第2位、200M自由形で第4位という見事な成績を残しました。野球部は中体連の大会ではありませんが、地域の選抜チームや県大会に出るチームが参加する大会で準決勝まで進み、小田原で開催された関東大会に出場しました。吹奏楽部は8月2日にさいたま市文化センターで行われた県の吹奏楽コンクールに出場し、見事な演奏を披露し、銀賞をいただきました。この他にもいくつかの部活動では1、2年生の夏季大会が行われ、新チームとして澆漑と試合に臨み、頑張ってくれました。文化部も自分たちの目標を持ち、頑張って活動していました。このような生徒の頑張りは、ひとえに各顧問の先生が、熱意をもって生徒とともに活動をし、生徒の体調に気を配りながら寄り添い、温かく指導してくれた賜物だと感謝しております。さらに、部活動を支えていただいている保護者の皆様のご理解とご協力のおかげだと心より感謝申し上げます。引き続き暑い日が続きます。今後も学校と家庭とが一体となり、各部の活動を支え、盛り上げてくださるようお願い申し上げます。

さて、「やればできる」の文句でお馴染みのティモンディの高岸宏行さんは私が好きな芸人の一人です。彼の前向きな姿や言葉を聴くと元氣や勇気をもらえます。この「やればできる」という言葉ですが、ある特集番組でその言葉の意味について、本人が説明していましたので紹介します。内容は次の通りです。「やればできる」とは「やれば成功（達成）できる」ということだけではなく、「やれば必ず成長できる」という意味が含まれているということでした。成功は目標かもしれませんが、真の目的は成長です。深いなと感じました。現実的には、「やらなきゃできない！」だと思います。やってみて直接体験したことが、成功体験につながります。しかしながら、目標を持ち、挑戦することで必ず結果も伴います。うまくいけば自信になりますが、失敗することで自信を失ってしまうこともあります。失敗することの怖さは多くの経験を積み積むほど感じるものなのかもしれません。失敗したくない気持ちもよくわかります。しかし、「成功」の反対は「失敗」ではなく、「やらない」ことです。「やった」ことで得られることは実はその人にとって計り知れない財産となるのです。

生徒の皆さん、2学期は1年間の中で一番長い学期です。合唱祭等の学校行事も1学期同様ありますが、落ち着いて学校生活を送れる学期でもあります。自己を見つめ、明確な目標を自分自身で決め、その目標達成にむけて、自分を変化させながら、失敗を恐れず、「やればできる」の気持ちで挑戦し、新しい自分を創造してほしいと思っています。皆さんの活力ある頑張りを期待しています。保護者・地域の皆様、今学期も教職員一同、生徒の成長のために「チーム大谷場」のもと、全力で教育活動に取り組んでまいります。今学期も本校の教育活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

※8月5日(土)に大谷場自治会、大谷場上町自治会、大谷場下町自治会主催の盆踊りに本校生徒14名が参加させていただきました。当日のみならず別日に踊り方や太鼓のたたき方のご指導をいただくなどご配慮いただき、感謝申し上げます。生徒が地域の皆様と生き生きと活動している様子を見て感動しました。今後も生徒が地域の方々とのかかわりを通して、成長していける学校を地域の方とともに目指していきます。